

基本構想（案）の検討経過

令和6年3月5日
第2回十和田湖1000年会議

国立公園における滞在体験の魅力向上先端モデル事業について

先端モデル事業の目的

インバウンド再開を踏まえ、国立公園満喫プロジェクトの更なる展開として、
民間活用による国立公園利用拠点の面的な魅力向上に取り組み、
美しい自然の中での感動体験を柱とした滞在型・高付加価値観光の推進を図る。

国立公園の利用の高付加価値化とは？

- ✓ 国立公園の魅力的な自然環境を基盤とし、地域の歴史・文化・生活を踏まえた、本物の価値に基づく感動や学びの体験を提供し、利用者に自己の内面の変化を起こす。
- ✓ 関係者が、持続可能で責任ある観光の姿勢を共有し、保護と利用の好循環を目指す。

全国で4地区
選定



次年度は
1～2地区が
次のステップへ

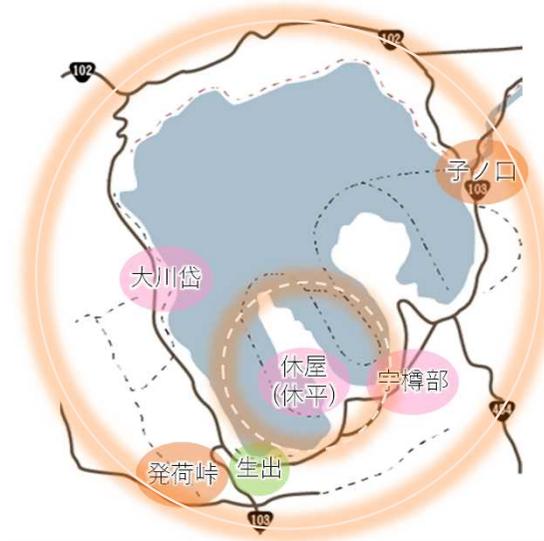


今年度事業の目的・実施内容

モデル事業候補地としての国立公園の高付加価値化に向けた基本構想検討

✓ 「十和田湖地域」の基本構想の策定

- ・これまでの議論も踏まえつつ、十和田湖一体での共通ビジョンを策定し、今後の土地利用・跡地活用等の指針とする



休屋での議論を
大川岱・宇樽部を含めた
十和田湖全体での
議論に拡充

✓ 十和田湖地域全体でのビジョンを議論する場の設置

- ・従来の意見交換のメンバーに3地区住民等、新たな構成員を追加

1000年会議

首長・関係機関上層部

幹事会

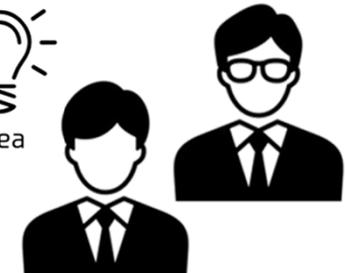
1000年会議出席機関
担当者

地域ワーキンググループ（3地区）

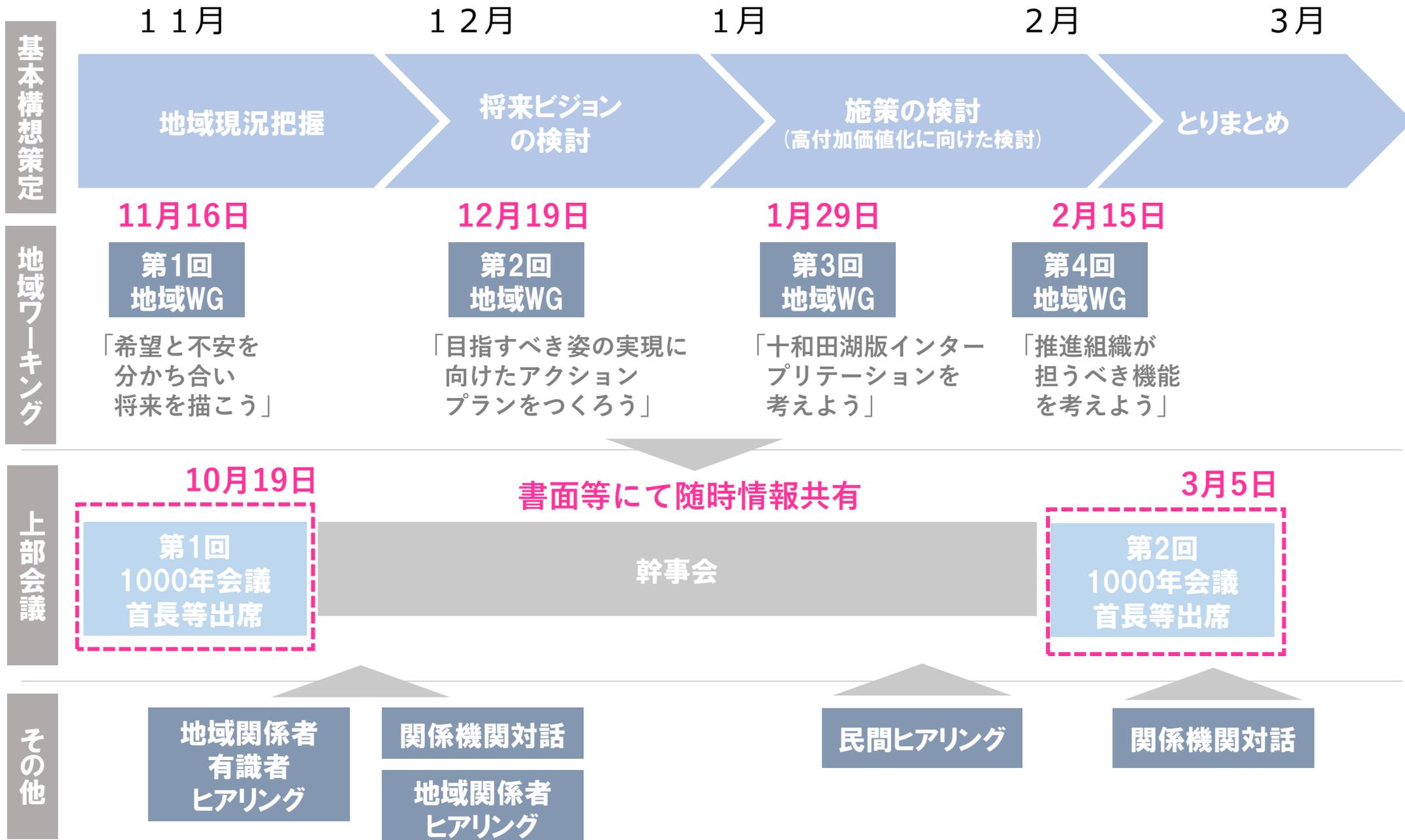
休屋・大川岱・宇樽部地域のコアメンバー

✓ 民間事業の参入スキームの検討と実現に向けた課題整理

- ・基本構想に対する民間発案の盛り込み
+ サウンディングによる実現可能性検討



今年度の会議実施結果



利用の高付加価値化に向けた基本構想 目次構成

序論

1. 構想の目的
2. 対象とする地域
3. 構想の位置付け
4. 構想の検討体制

基本構想(案)

1. 地域の現状と課題
 - (1)地域の概況 (2)自然・文化資源等の状況
 - (3)地域のくらしの状況 (4)観光・なりわいの状況
 - (5)十和田湖地域の利用の高付加価値化に向けた課題
2. 利用の高付加価値化に向けたビジョン
 - (1)前提となる考え (2)ビジョン (3)目指す姿
3. 利用の高付加価値化に向けた施策の方向性
 - (1)自然・景観・文化の持続性 (2)くらしの持続性
 - (3)なりわいの持続性
4. 利用拠点の磨き上げに向けた検討
 - (1)ゾーニングの設定
 - (2)磨き上げを行う利用拠点の特定と方向性
 - (3)十和田湖版インタープリテーション全体計画
5. 宿泊施設の方向性
 - (1)宿泊施設の担う役割
 - (2)高付加価値化のための宿泊施設の方向性
6. 推進体制・スケジュール
 - (1)推進体制 (2)スケジュール

ヒアリング
既存資料等の整理

第1回地域WG

【希望と不安を分かち合い将来を描こう】
地域の魅力や課題と目指す姿を議論

第2回地域WG

【目指す姿の実現に向けたアクションプランをつくろう】
目指す姿を叶えるための施策イメージを議論

第3回地域WG

【十和田湖版インタープリテーションを考えよう】
IP伝えるべき魅力、どう感じてほしいのか等、
素材と方向性を議論

第4回地域WG

【推進組織が担うべき機能を考えよう】
推進組織がどんな機能を持ち、地域で何を
準備していくべきかを議論

地域ワーキンググループの 実施結果報告

【第1回WG】での検討内容

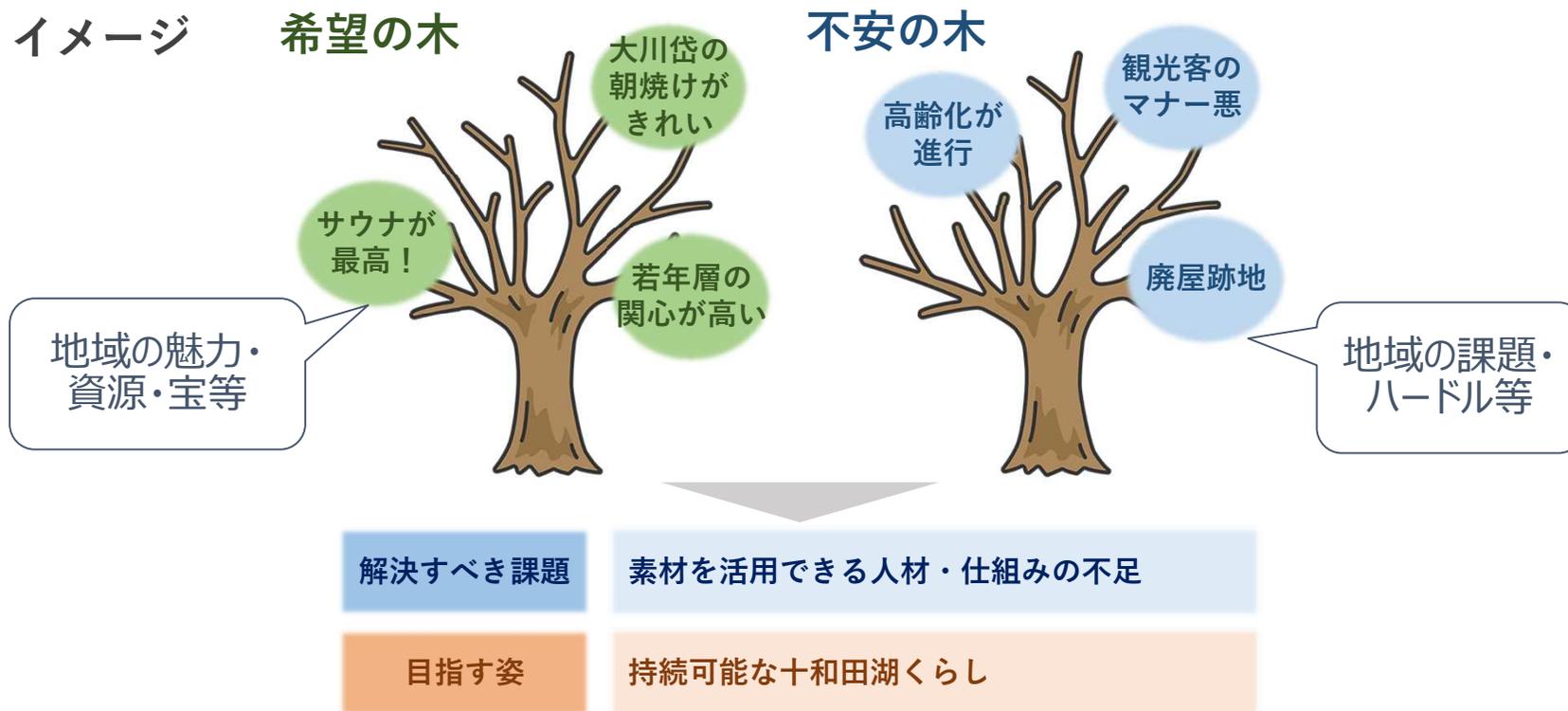
ワークテーマ「希望と不安を分かち合い将来を描こう」

①希望と不安を分かち合おう

- ・みなさんの希望・不安を付箋に描き、それぞれの木に貼って共有してください
- ・希望の木には「地域の魅力」「資源・宝」を、不安の木には「課題」「ハードル」等を書いてください

②希望と不安を踏まえ、解決すべき課題と目指す姿を描こう

- ・希望の木・不安の木を見直して、十和田湖地域が取り組むべき課題と目指す姿を話し合ってみてください



【第1回WG】 テーマ「希望と不安を分かち合い将来を描こう」

グループ名

D

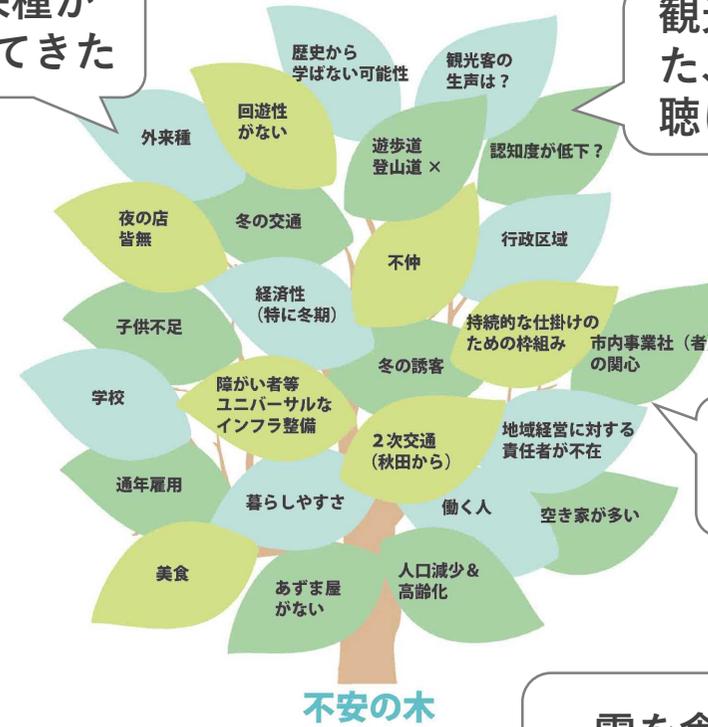
すばらしい
自然・景色

周辺にもいいところ
がたくさん！
(八甲田・津軽・八戸)



外来種が
増えてきた

観光客が減った、生の声を聴けていたか



十和田湖の
認知度低下

霞を食べては
生きていけない

本田さんが
持続可能性について
語ってくれました



解決すべき課題

持続可能で安定的な収益確保

目指す姿

地域住民・企業・行政の連携による「暮らし」と「観光」の両立

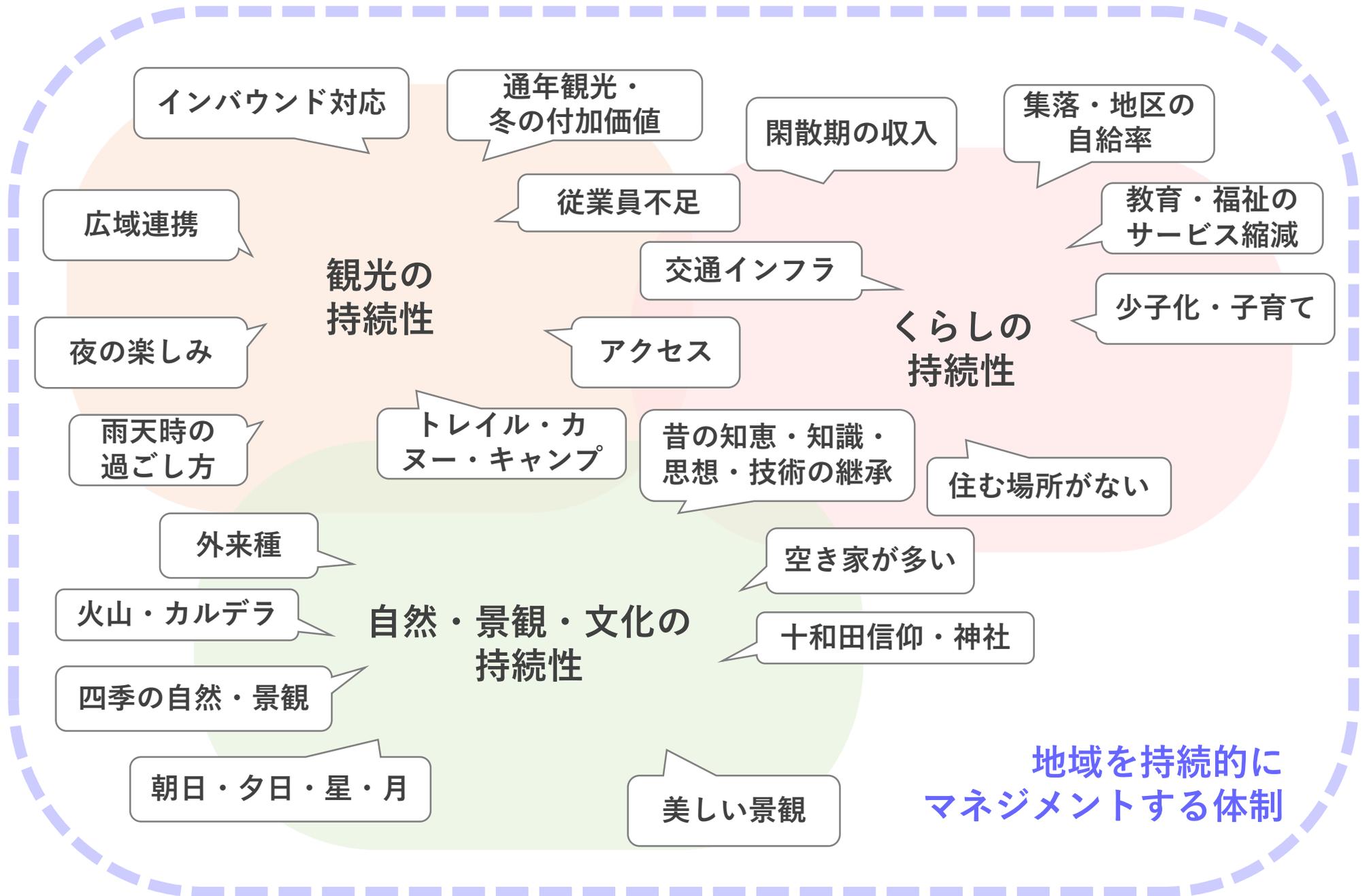
持続可能で安定的な収益確保でいろんなプレイヤーが連携できるといい！



最近の面白い取り組み
既存施設を活用した
アクティビティ

十和田ふるさとセンター
の紹介も！

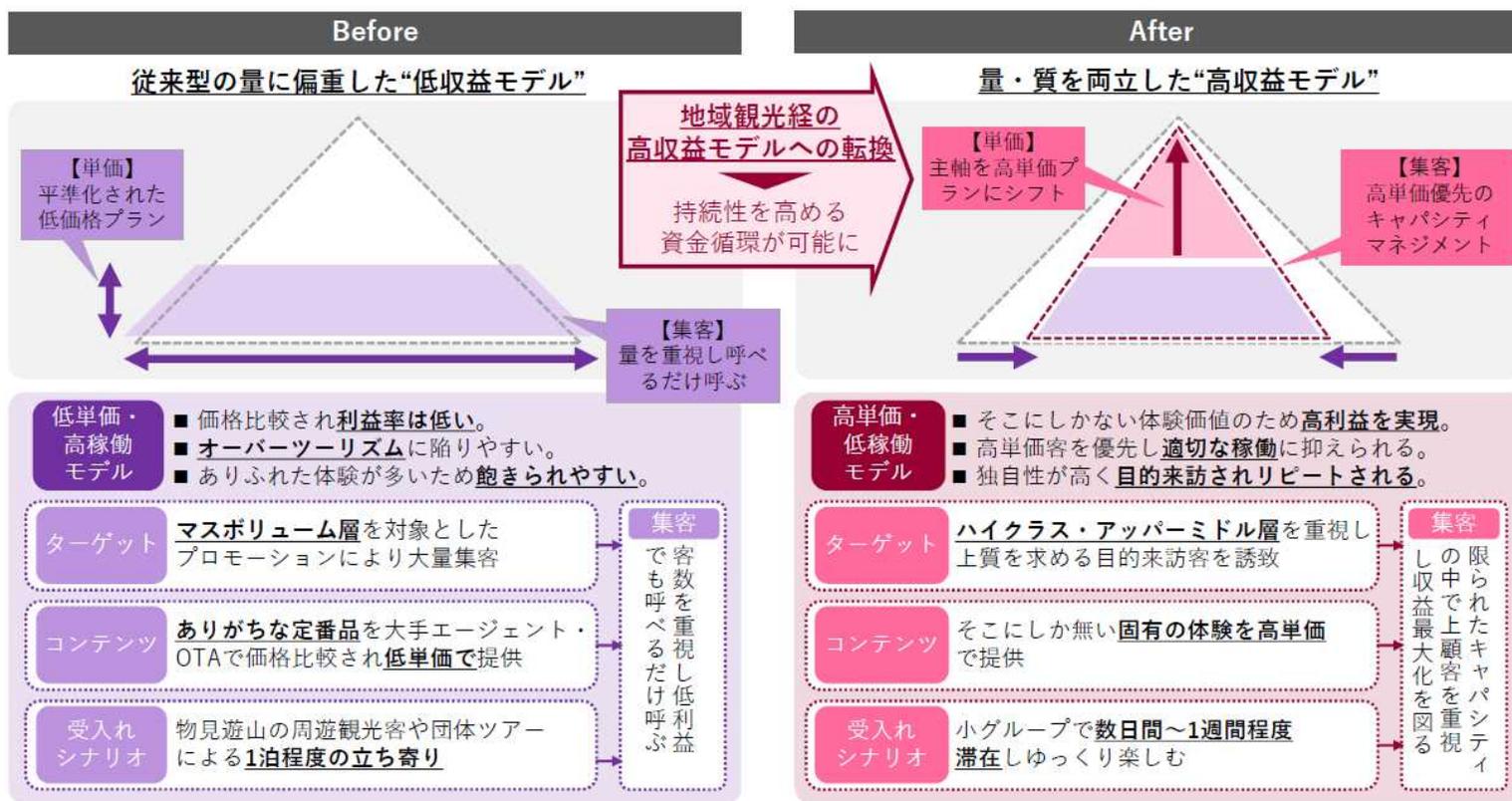
【第1回WG】 希望・不安の木から見えた目指すべき地域の姿



【第1回WG】池嶋さんによる勉強会

「国立公園の利活用・上質な観光が地域のくらしの持続性を高める」

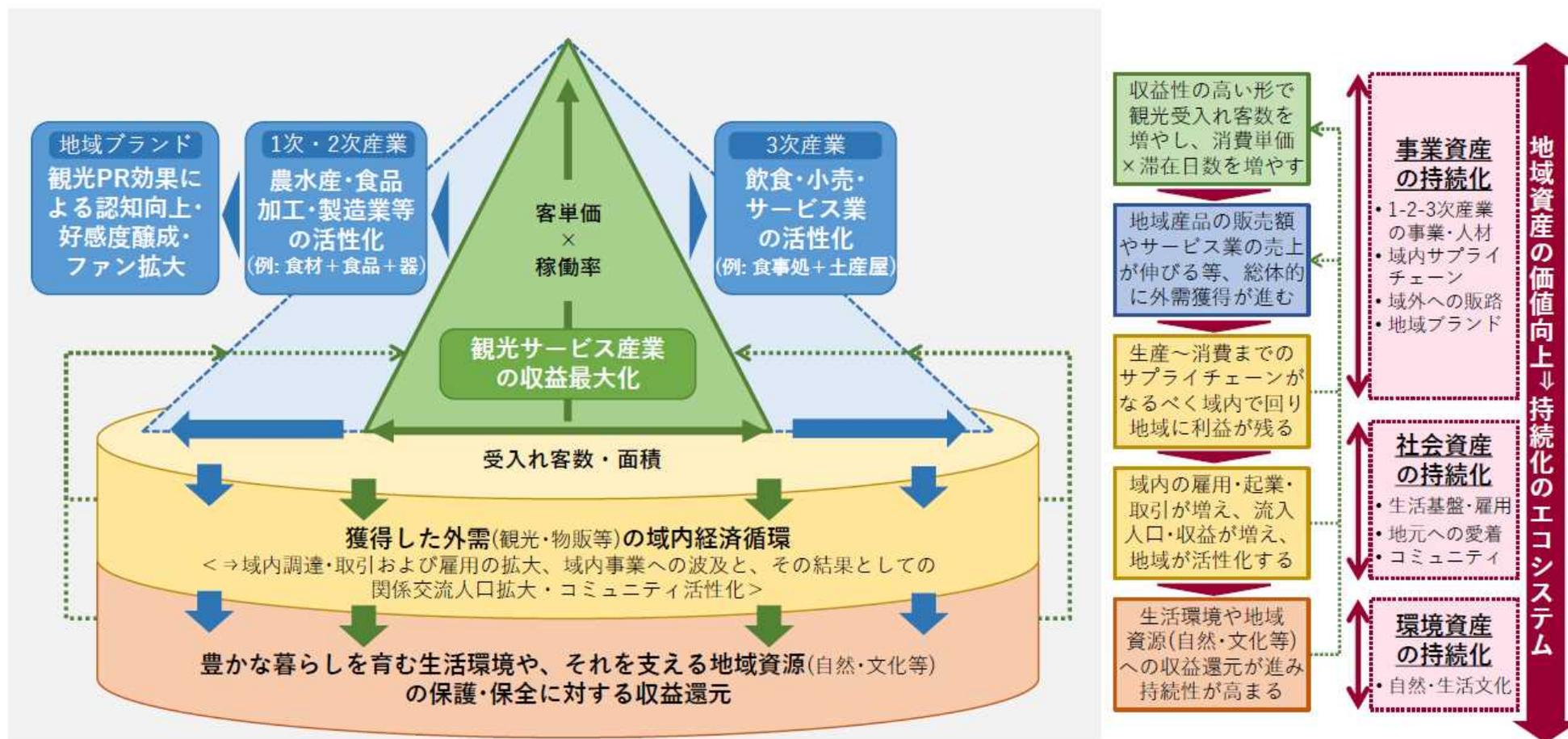
従来型の量に偏重した「低収益モデル」から
量・質を両立した「高収益モデル」へ



【第1回WG】 池嶋さんによる勉強会

「国立公園の利活用・上質な観光が地域のくらしの持続性を高める」

観光産業をエンジンとして、地域社会の持続性を高め、次世代へつなぐ「エコシステム」を定着させることが地域社会にとってのゴール



【第2回WG】での検討内容

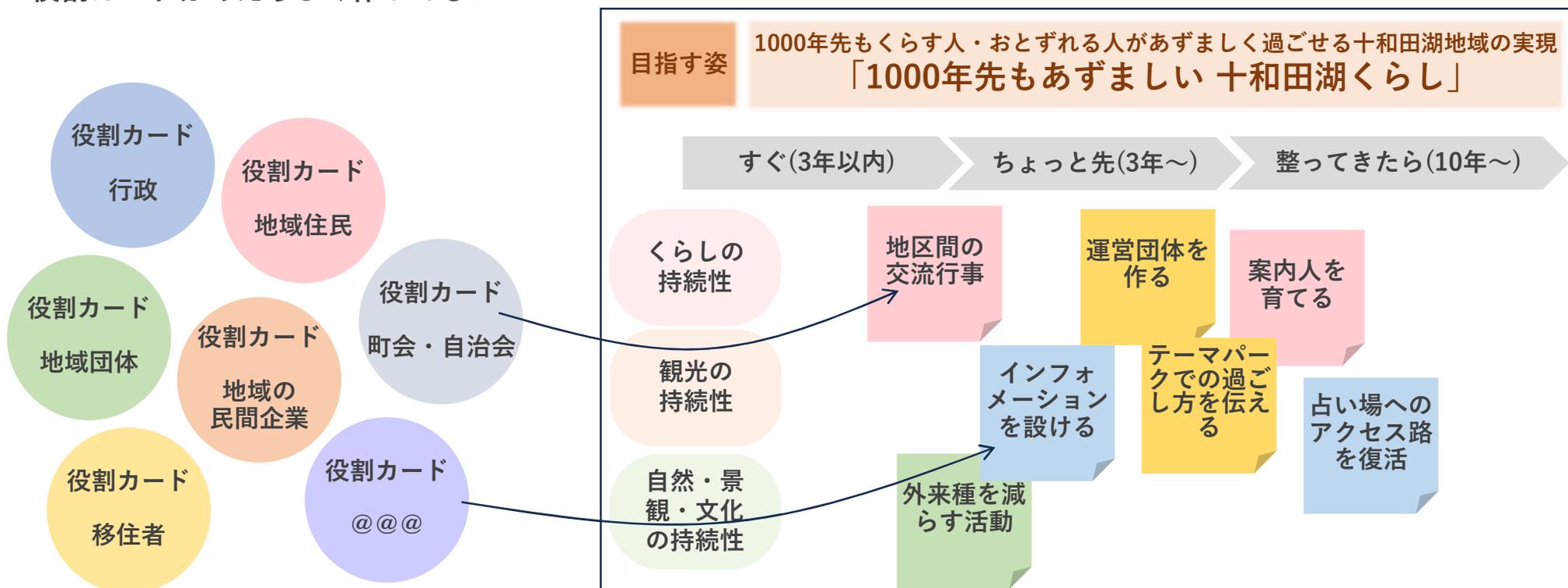
お題「目指すべき姿の実現に向けたアクションプランをつくろう」

①アクションを考えよう

- ・「取り組むべき方向性」を実現するためにアクションカードを作成しましょう
- ・カードができたなら、取り組みのジャンルと実施時期を考え、仲間に紹介しながら貼ってください

②役割カードを使って、実行主体を考えよう

- ・アクションプランに対して、誰が実行すべきか議論し、役割カードを貼ってください
- ・役割カードはあたらしく作ってもOK



【第2回WG】「目指すべき姿の実現に向けたアクションプランをつくろう」

グループ名

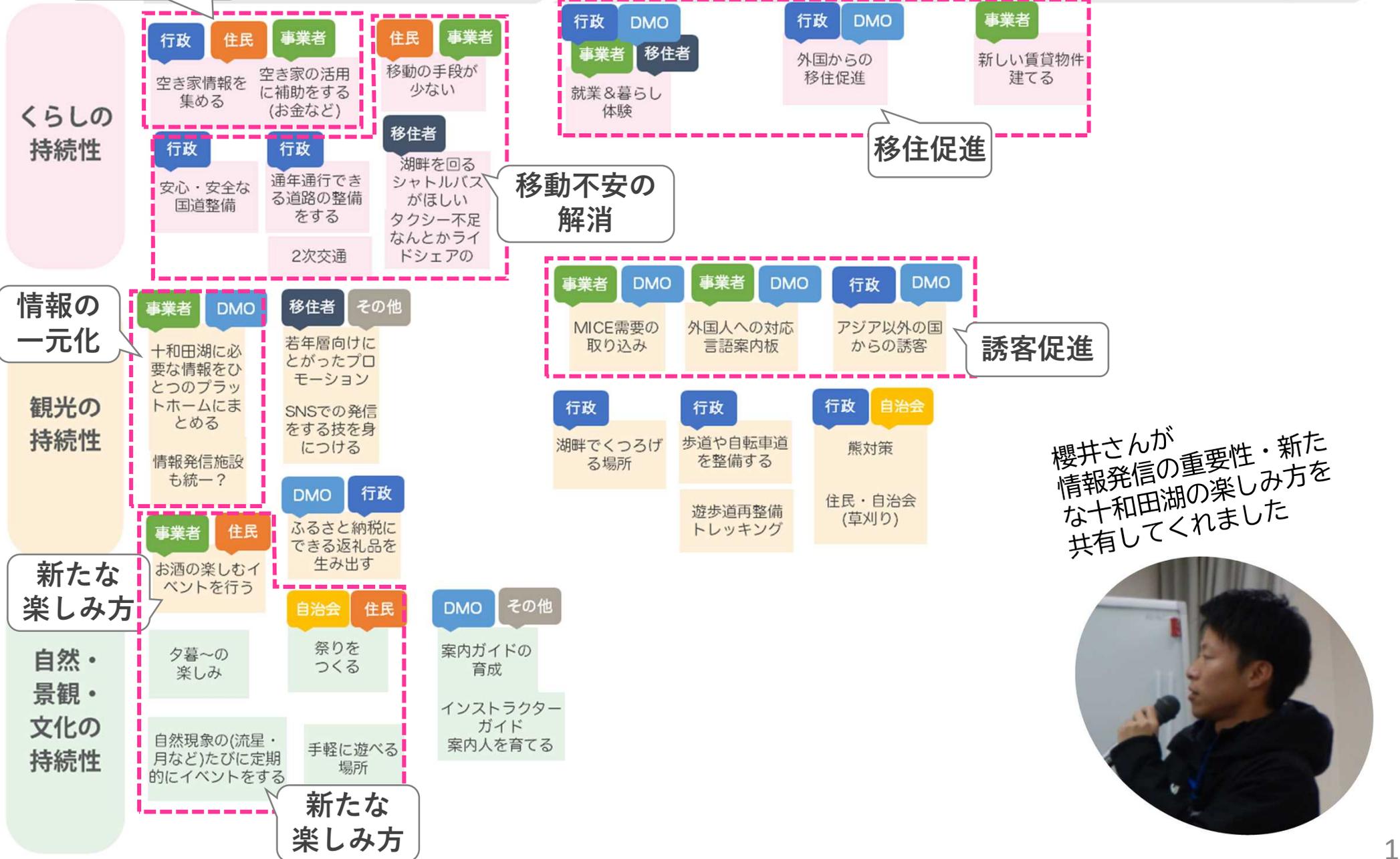
B

人が入ってくる仕組み

すぐ(3年以内)

ちょっと先(3年~)

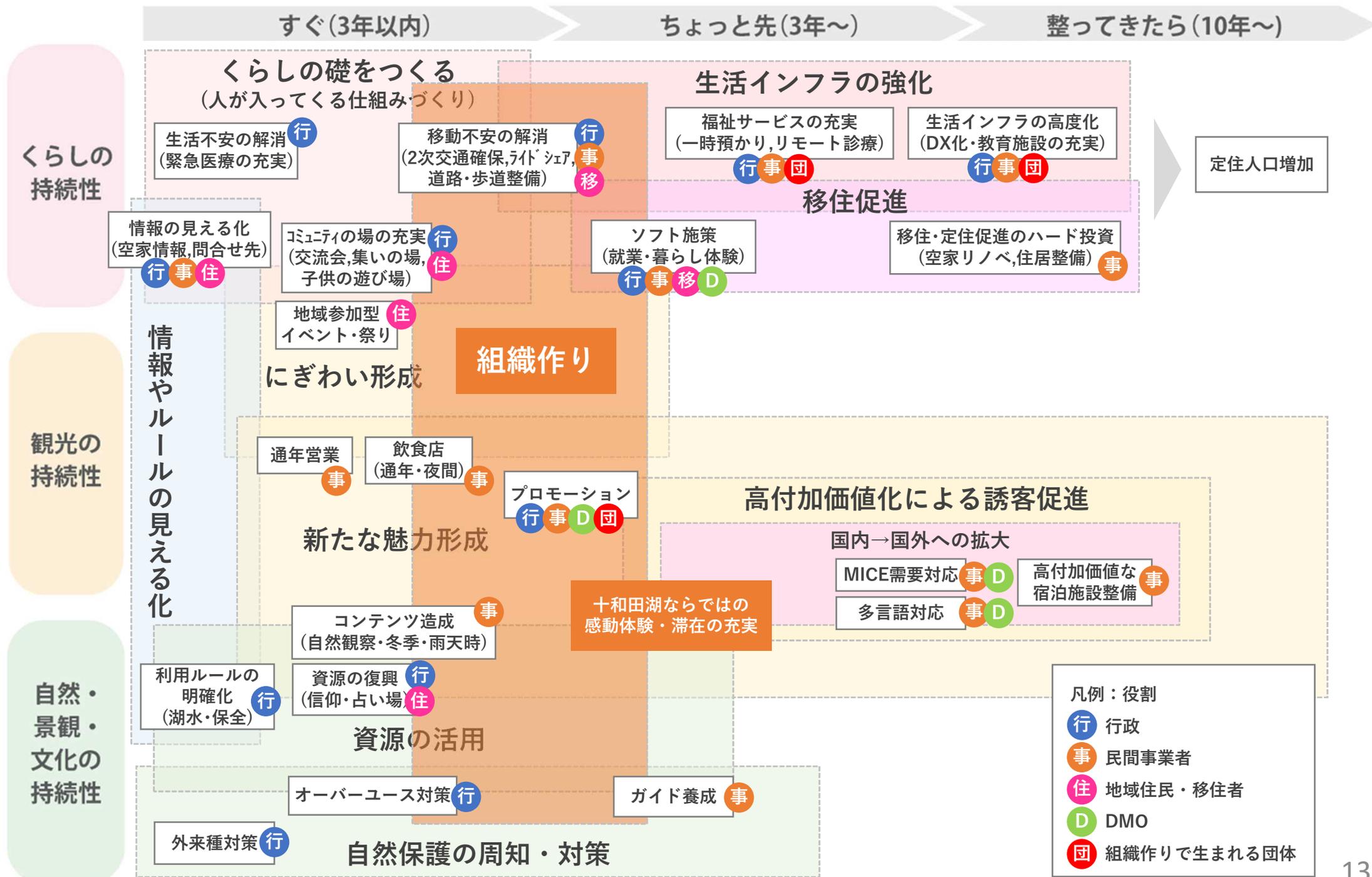
整ってきたら(10年~)



櫻井さんが情報発信の重要性・新たな十和田湖の楽しみ方を共有してくれました



【第2回WG】アクションプランの方向性



【第3回WG】環境省 国立公園利用推進室による勉強会

「インタープリテーションとその計画」

事実・情報をつたえるのではなく、
その背後にある意味・関係性を深く理解し
体験を通して伝わる仕掛けが重要
インタープリターは触媒の役割



インタープリテーションとは

Tangible 触ることができるもの

事物・事象 モノヤコト



Intangible 触ることができないもの

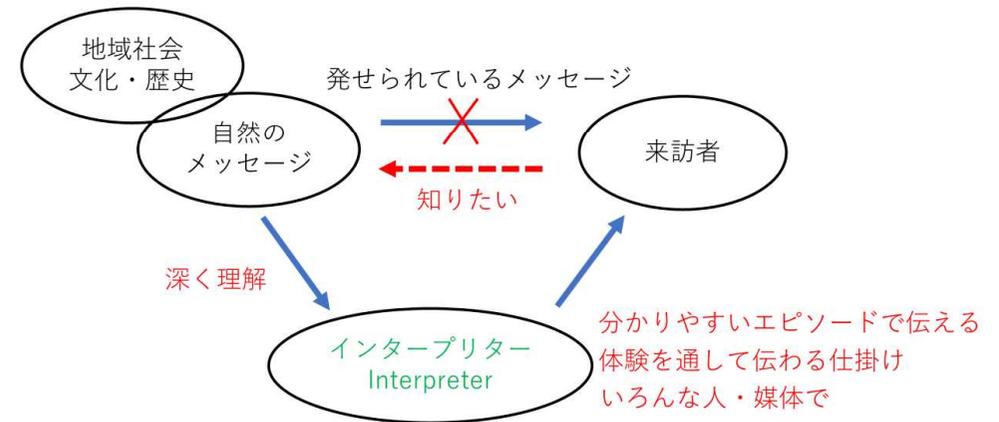
意味、関係性、価値

出典：西村仁志「インタープリテーション総論」

16

インタープリテーションは、背後にある意味や関係性を解き明かす

事実や情報を伝えるというよりは、直接体験や教材を活用して、**事物や事象の背後にある意味や相互の関係性を解き明かす**ことを目的とする教育的な活動（フリーマン・チルデン,1957）



出典：西村仁志「インタープリテーション総論」を改変

17

【第3回WG】環境省 国立公園利用推進室による勉強会

「インタープリテーションとその計画」

5W1Hを文字化し、感動的な体験を通じて
考え方・感じ方・行動・内的変化を促していく

楽しい・きれいだけでなく
国立公園の基盤たる自然に対して
感動と学びを通じて愛着と責任を促す



インタープリテーション全体計画の要素



- Why(なぜ) : 使命・目的
- What (なにを) : 扱うモノやコト
 - ・重要な資源：地域や施設が持っている、重要な資源のリスト
 - ・テーマ：メッセージ
 - ・望まれる来訪者の経験：ビジターにどのような経験や体験をしてほしいか
- Who (だれに) : 利用者の類型と分析
 - どのような利用者が来ているのか、あるいは来ていないのかを整理し、ターゲットを想定する
- When Where (いつ、どこで)
- How (どうやって) : 具体的な媒体
 - インタープリテーションのメディア (媒体) をリストアップする

19

インタープリテーション全体計画で言語化するもの

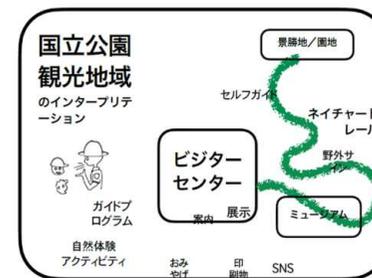


望ましい来訪者の体験：

インタープリテーション活動がどのように来訪者の身体的、知的、情緒的体験を高めるかを定義する。

「来訪者体験の目標」は、どのような機会を人々に提供し、体験の結果、インタープリテーションが人々の考え方や感じ方、行動をどのように変化させられるかを提案する。

「インタープリテーションと教育のガイドライン」
(訳：インタープリテーション協会)



図：一般社団法人日本インタープリテーション協会作成

※施設整備やアクティビティもインタープリテーションの1手段

※ソフトもハードも、統一されたメッセージを伝えるためにデザインされる

※結果として場の面的なブランディングにつながる

20

【第3回WG】那須平成の森 フィールドセンター長 による勉強会

「インタープリテーション全体計画（エリア型）が地域にもたらすこと」

地域の価値を文章化することで
魅力に対する細やかな差異を話し合う機会に
インタープリテーション計画は作って終わりではなく、
ブラッシュアップし続けることが重要



“わざわざ”ポイントを
いかに整理できるか

わかりやすく整理する工夫②

「インタープリテーション(IP)全体計画」の中で、
お客様に伝えたいメッセージを以下のように整理した。

(雲仙温泉の場合)

- ・IP全体計画を活用して、**地域の誰にどんな風になって欲しいのか？**
- ・お客様に、どんな体験をして欲しいのか？
- ・お客様と共有したい、地域ならではの価値
価値＝メッセージ・テーマ
(**あえて文章化し明確にする⇒共有できる⇒ブラッシュアップできる**)
価値に紐付いているストーリー
(**共通している考え方や見方を端的な文章として記述**)
ストーリーを伝えるおすすめの場所や体験
- ・お客様からよくあるQ&A (**聞かれたときが、伝える・伝わるチャンス**)
- ・現状の来訪者及び今後期待される来訪者、
それに合致するインタープリテーション、メディア、プログラムの整理

31

わかりやすく整理する工夫③

資源そのものではなく、**価値＝メッセージ・テーマ・
ストーリーを整理するのはなぜか？**

資源の裏側 (**見える物から見えないものを伝える**)

それを、どう解釈するかで、感動や学びが大きく変わってくる
(そこに、**わざわざ来訪し、体験し、感じる価値があることに気づいて欲しい**)

見ただけでは、わからない。。**だからこそ、体験やガイドを通して伝えられる**

- ・商売のチャンス
- ・地域ならではの、魅力を知っていただけるチャンス
- ・**地域の人に出会えるチャンス**
- ・**ファンになっていただけるチャンス**
- ・**保全への動機を得られるチャンス**

32

【第3回WG】那須平成の森 フィールドセンター長 による勉強会

「インタープリテーション全体計画（エリア型）が地域にもたらすこと」

地域の宿泊施設や飲食施設と組んで
地域のよさを伝えるプログラム等の個の総力戦
個々の力が地域全体の力に！



平成の森 加藤雅寛

結果 ②

地域はみんながんばっている！
ガイドさんもお宿さんも、お土産屋さんも、観光協会も、行政も！

でも、個が個のままだと、地域全体の力になれていない…
バラバラのままだともったいない！



個の総力戦に！

**地域制国立公園だからこそ、
インタープリテーション全体計画の
意味・意義がある！**

だからこそ、インタープリターやガイドを頼まない方々にも、
地域の価値を届けられる地域になれるよう、
料理人やお土産屋さん、酒屋さんやホテルの接客スタッフさんなどにも、
広く参加いただき、地域の価値の整理から、研修、コンテンツ造成まで一緒に取り組んでいただきました。

【宿泊施設】 星野リゾート 界 雲仙 温泉のいろは

- ・星野リゾート 界 雲仙と共同で作成（2022年11月）。
- ・スタッフ全員がインタープリテーション全体計画を推進し、雲仙温泉の歴史や観光などについて、大きなイラストが描かれたポスターリーフレットを作成し、楽しく、分かりやすく解説・案内。
- ・星野リゾートというブランドと共同で連携することで、雲仙のブランディングが進む。

【飲食店】 雲の中Café 煎干しラーメン

- ・雲仙温泉の当地グルメを創作することが狙い。地元産の食材でありかつ全国有数の生産量を誇る煎干しや豚肉・長ネギ・玉ねぎ・しょうが・海苔などを使用し、本当に美味しい食を作ることでより新たな客層の掘り起こしを図る。
- ・試作を重ねることで生産者との意思疎通が可能となり、より良い食材作りへの意見のフィードバックが回れた。

※添付：自然の恵みと心身の健康（ウェルネス）
・火山と人が育んで来た豊かな食材がある
・滋味豊かなたまり醤油と料理人のコラボレーションが味わえる

結果 ⑤ 気づき

本取り組みを進めていく中で、当初想定しなかった“気づき”があった。

IP全体計画があることで、様々な関係者が、
地域の魅力をわかった上で、**それらを自分なりに解釈し、
自分の得意なことや商売、人生と掛け合わせて伝えることで、
より、リアリティをもった、その人だけが語れるストーリーになる。**

例えば、火山の恵みを、食で伝えられること、自然で伝えられること、温泉で伝えられること…それぞれ違いがありつつも、地域の魅力を伝えてくれる！ 例えば、お酒好き、人好き、自然好きのキャラによって、語り口が違うからこそ、いろいろなお客様にジャストフィットの魅力に出会える！ そんなイメージ！

そのことにより、**人間的な魅力や、商売ならではの切り口が、
賭け合わさって、より、地域の魅力が伝わりやすくなる。**ということ。

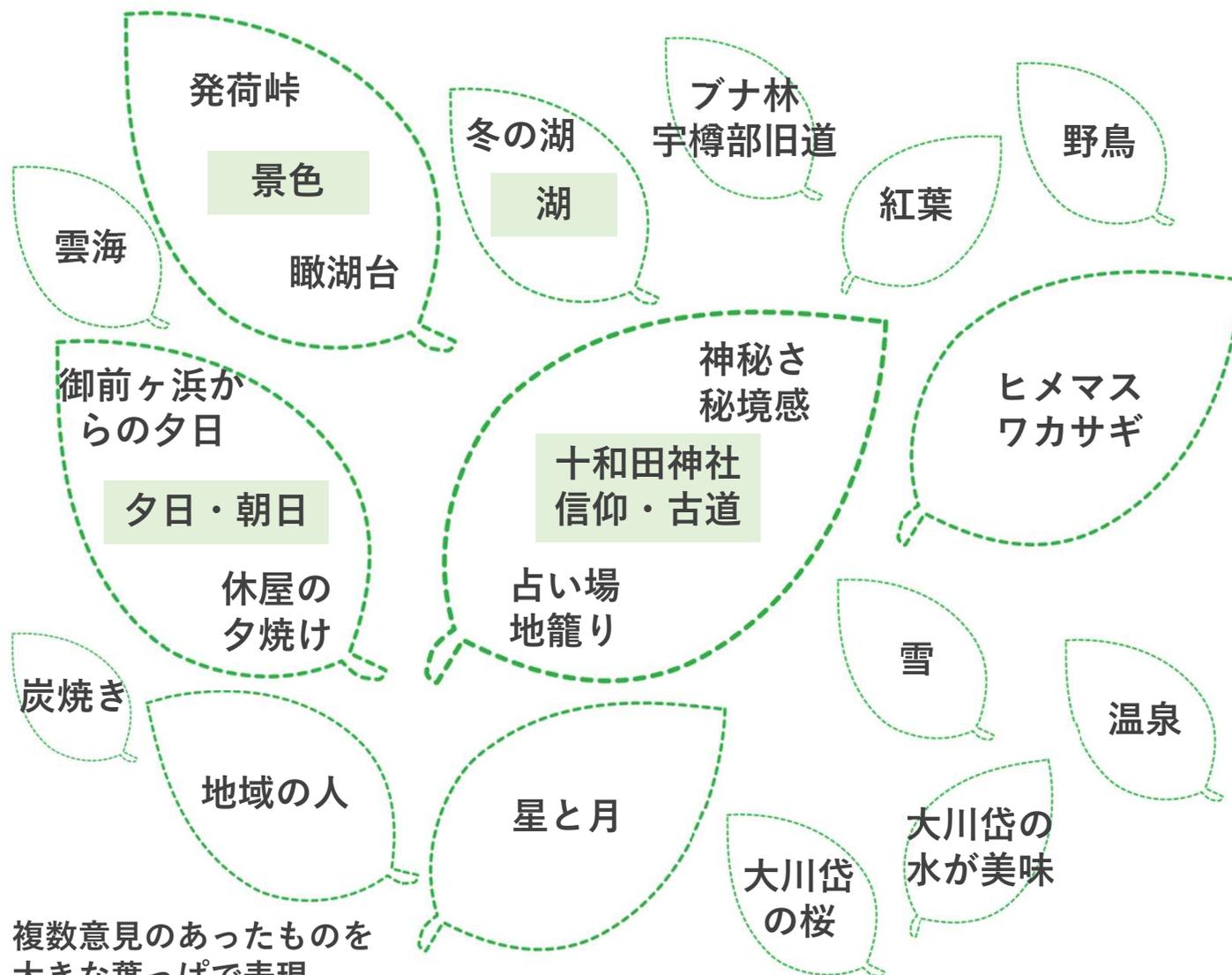
そうなることで、**個でがんばっていることが、地域全体の力になる。**

個の総力戦になる！

【第3回WG】での検討内容

お題「十和田湖版インタープリテーションを考えよう」

①第1回WGでたくさん出た「十和田湖の魅力」を振り返ろう



複数意見のあったものを
大きな葉っぱで表現



【第3回WG】での検討内容

お題「十和田湖版インタープリテーションを考えよう」

②あなたの思う伝えるべき魅力を3つ選び、どう感じさせ・何を持って帰ってもらうか考えよう

③各役割が、どうやって伝えるか記入しよう

来訪者に「どう感じさせ、何を持って帰ってもらうか」を記入しよう

だれがどうやって伝えるべきか記入しよう

例) ワークシート

なにを	どこの※場所が特定できる場合	どう感じさせ、何を持って帰ってもらうか	だれが・どうやって						
			お宿	お土産屋	飲食店	アクティビティ事業者	行政(観光部局)	住民	私(これは得意!)
十和田湖信仰	十和田神社	十和田信仰の神秘さに触れ、地元との繋がりを意識する	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックイン時に案内 ●ガイドツアーを紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者に案内 ●ガイドツアーを紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者に案内 ●ガイドツアーを紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ●ガイドツアーを造成 ●送客を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ●HP等でPR ●各事業者間をつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ●見守る ●十和田信仰を子供に伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ●神社であった来訪者に声をかける
夕焼け	休屋	きれいな夕焼けに心が洗われ、疲れた時に思い出す	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックイン時に案内 ●夕焼け鑑賞会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者に案内 ●夕焼け関連の商品を開発 ●ガイドツアーやお宿を紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者に案内 ●ガイドツアーやお宿を紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ●ガイドツアーを造成 	<ul style="list-style-type: none"> ●HP等でPR ●各事業者間をつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ●参加・夕焼けマニアを育成 ●近所・家族で夕焼けを楽しみ、教えあう 	<ul style="list-style-type: none"> ●ゆっくり見える場所を紹介できる
ヒメマス	—	十和田湖とヒメマスの繋がりを知り、友人に伝えたいくなる	<ul style="list-style-type: none"> ●飲食店を案内 ●メニューや提供時に説明を追加 	<ul style="list-style-type: none"> ●関連商品の開発 ●お店のポップに説明書きを 	<ul style="list-style-type: none"> ●独自商品の開発 ●メニューや提供時に説明を追加 	<ul style="list-style-type: none"> ●飲食店を案内 ●ヒメマスと湖・自然の繋がりを伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ●HP等でPR ●各事業者間をつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ●おすすめのお店を紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ●ヒメマスの独自メニューがある

【第3回WG】「十和田湖版インタープリテーションを考えよう」

湖関連を書いたのは11人！

なにを「湖」

口火を切ってくれたのは太田さん！



【太田さん・冬の湖】
宇樽部からカヌーに乗って、冬の十和田湖を湖面の高さで味わってほしい。冬の十和田湖は白黒の世界。非日常を味わってほしい。

ガイドハウス
櫓で体験可能



(太田さん)
櫓へ案内できる！

【甲田さん・冬の湖】
火口の中にあるレアさや冬の森の静けさの体験。達成感や感動体験を誰かに伝えてもらう循環も作りたい。



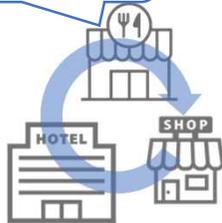
感動体験は言い伝えられる



利用者に案内



お客さんのリアル情報を伝えあう



【川又さん・湖】
十和田湖の文化・自然の素晴らしさ・非日常を感じて帰ってほしい



全員がガイド！
住民が文化・変化を伝えていく

十和田湖を一周して滞在時間を延ばす



【夏堀さん・冬の湖】
湖の透明度を五感で感じてほしい。水にまつわるくらし・使い方も伝えたい。



誰に伝えていくかということも重要

部屋に資料を置く、
宿泊プランやコンセプト部屋・料理



【佐々木さん・湖の歴史】
噴火によって湖・河が出来、街ができた、これは文化。地形・自然・くらしの関係性



市街のアートと歴史のコラボ

行政(教育)は湖を起点とした歴史を伝える



十和田湖地域だけでなく市街との繋がりも！



【第3回WG】「十和田湖版インタープリテーションを考えよう」

信仰関連を書いたのは9人！

なにを「十和田信仰」

【中川さん・自然崇拜・占い場】
自然に対する感謝・畏怖の念、
歴史を知ったうえで自然の奥深
さを知ってほしい

【安藤さん・十和田信仰】
十和田湖は自然への畏怖と
いう信仰が行政の枠組みで
保全を担ってきた



中川さんの自然への
畏怖に共感！

史跡の保
護・整備

行政



昔の話・経験を
次世代に伝える

明治に青森県知事・竹田千代三郎が
十和田湖を視察。その素晴らしさに
感動し、「十和田保勝論」を発表

でも...それを知れる場所
がない...
共有のためのストーリー
づくりができればな

ヒメマスを書いたのは8人！

なにを「ヒメマス」

【金村さん・ヒメマス】
名物にして宣伝してい
きたい、地域で加工品も！

飲食店で刺身にして
よろこばれている！



ヒメマスリレー！

【佐々木さん・ヒメマス】
ヒメマスが登っていく姿が
道路のすぐ近くから見るこ
とができる！



アンカー
ご指名！

【荻沢さん・ヒメマス】
ヒメマスの一生や地元なら
ではの食べ方を知ってほしい



提供時に
案内・説明

加工の手
順を案内

店ならではの
特徴を出す



漁協に必要な
のは担い手



年号	できごと
明治42年	全国地方長官会議で青森県知事・武田千代三郎が嘉仁皇太子より十和田湖について下問される
明治44年	武田千代三郎が十和田湖を視察
明治45年・大正元年	武田千代三郎、元旦の東奥日報紙上に「十和田保勝論」を発表
大正2年	武田千代三郎『十和田湖案内略』刊行、青森県知事退官
大正5年	農林省より十和田湖・奥入瀬溪流が風致保護林に指定
大正9年	青森県が内務省に十和田国立公園指定を陳情
昭和3年	十和田湖・奥入瀬溪流が国指定天然記念物・名勝に指定
昭和11年	十和田国立公園指定

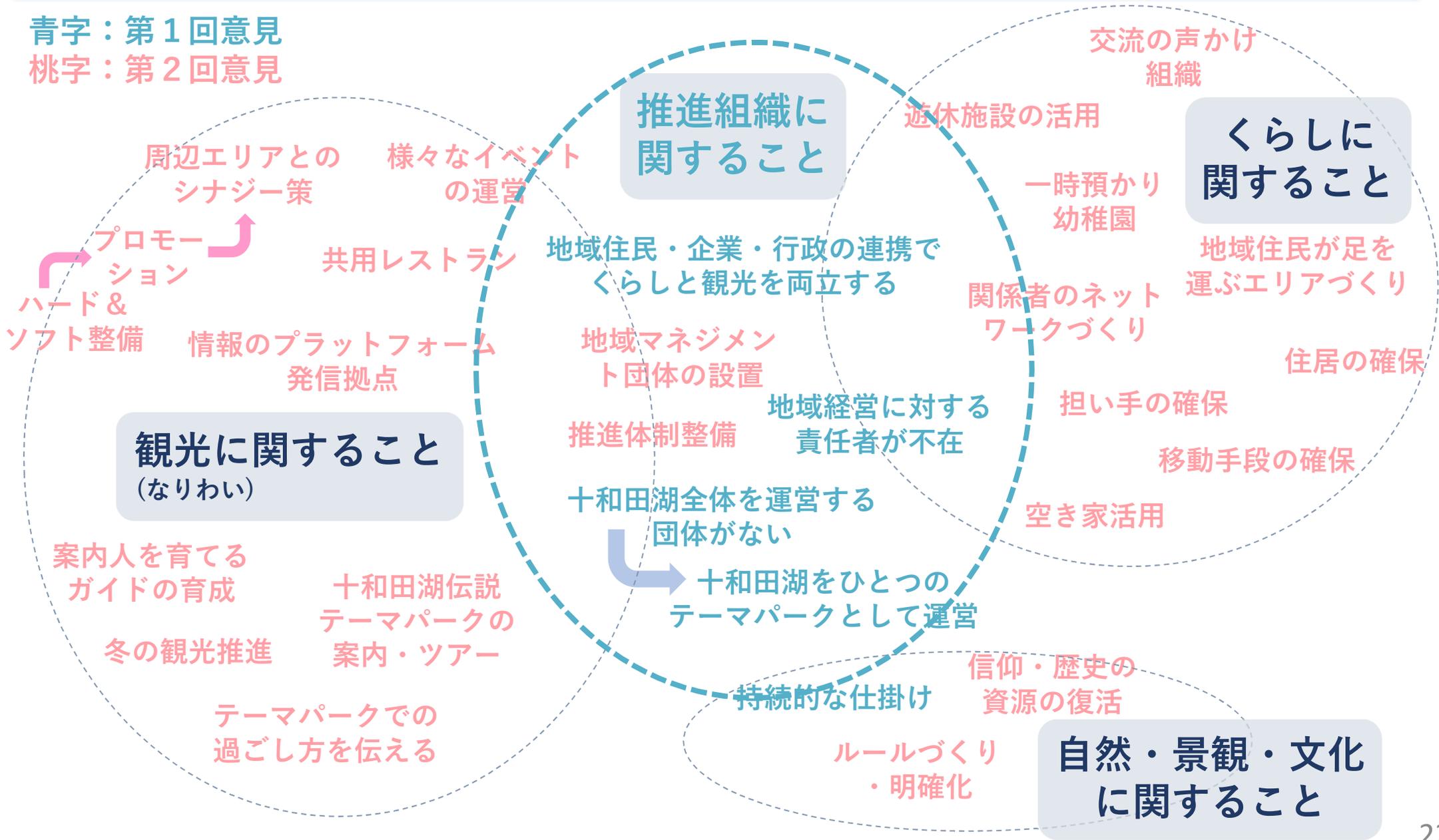
※奥入瀬フィールドミュージアムHPより一部抜粋

【第4回WG】基本構想を実現するための推進体制とは

第1・2回WGで出た「推進体制」に関わる意見を振り返ろう

青字：第1回意見

桃字：第2回意見



【第4回WG】事例共有／他地区における推進事例の紹介

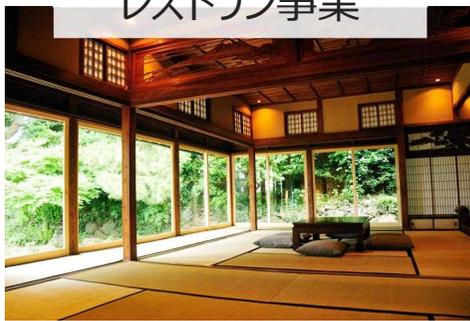
■ NPOおぢかアイランドツーリズム（長崎県小値賀町）



古民家ステイ・レストラン事業



民泊事業



■ ジソウラボ（富山県南砺市井波地区）

募集人材の明確化



2023.7.5
◎新規募集【(MA)P_募集】
地域モビリティ（一社）
イドウラボ メンバー



2020.7.27
【御礼/縁切】新しい時代の
地域商社マン「ローカル・
プロデューサー



自立型

01

スパイス×新しい食文化に挑むローカル料理人

ジソウラボサポーター北村 隆洋
カレーに使われるスパイスの種類や分量を覚えて料理に挑戦しています。小さな地域に新しいスパイスを投入することにより地域住民に選ばれる新しい料理の可能性が創出する。そのような機会をいっしょに生み出す方を募集しています。

& more

移住・開業サポート 制度

つながり サポート 制度

メンター 伴走制度

マスター・ ラウンジ 制度

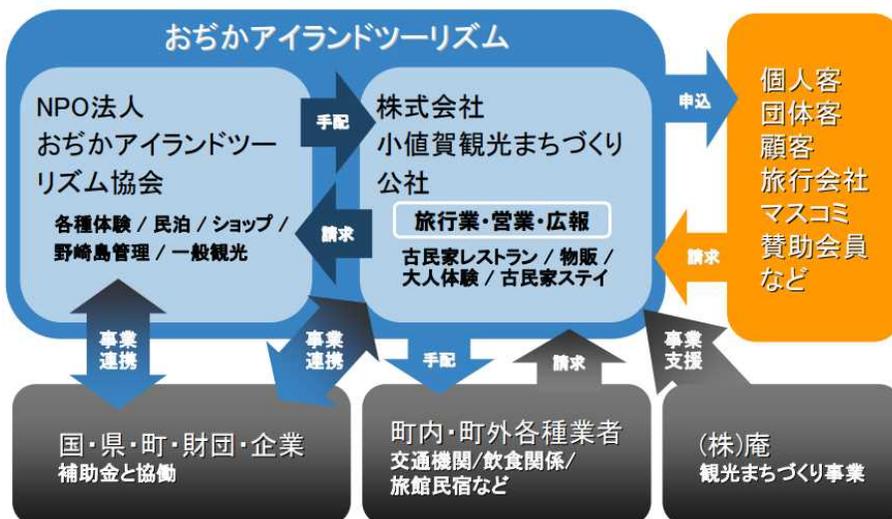
自立分散型組織による地域課題解決

小値賀町観光協会

ながさき・島の自然学校

おぢかアイランド
ツーリズム推進協議会

観光分野の3つの組織を一本化



01

一般社団法人イドウラボ

代表:岩瀬直人 ジソウサポーター:小倉朝

交通の課題をデータ活用により解決するラボです。井波の関係人口にとって便利な交通の実現を目指し、自治体と共に事業を推進しています。

& more

地域内交通システムの確立

02

一般社団法人アキヤラボ

代表:小西正明 ジソウサポーター:前川大地

起業家の伴走には高い場所・住む場所も必要では?との考えから店舗/住居に特化したラボです。同時に井波の空き家の課題解決に取り組んでいます。

& more

空き家の利活用

03

任意団体ケイギョーラボ

代表:遠藤あずさ ジソウサポーター:湯田優平

井波地域では後継者不足が深刻化しており、必要とされる方々の募集していただく機会を創出している。その解決方法の一つとして、専任以外へなりわいを承継する「他業」の仕組みを推進する。

& more

生業の承継

現在立ち上げを検討しているラボ

モリラボ(仮称):高野の豊かな森林資源を有効活用し、新たな地域振興の仕組みを構築する。
ソコラボ(仮称):慢性的な職人不足が叫ばれている洋傘、新たな作り手と繋がるプラットフォーム構築を目指す

【第4回WG】での検討内容

お題「推進組織が担うべき機能を考えよう」

①推進組織が担うべき機能について話そう

・これまでのワークで出た「組織で担うべきこと」「アクション」を踏まえ、「推進組織が担うべき機能」を洗い出そう

②今日のグループのメンバーで推進組織を作ること！！不足するものを考えよう

③不足するリソースを踏まえ、私たちが頑張れることを記載しよう！

チーム名・組織名／		
機能・取り組み内容に関すること	不足するリソースは？	私たちが頑張れること
<p>不動産情報の 収集・公表</p> <p>仕事情報の 収集・公表</p> <p>移住者向け 案内・支援</p> <p>3地区全体 交流会の実施</p> <p>不動産仲介</p> <p>インフォメー ション</p>	<p>不動産に 詳しいメンバー</p> <p>時間がない</p> <p>活動資金</p> <p>自然体験を 提供できない</p>	<p>交流会に 参加する</p> <p>資金の得方の 事例を集める</p> <p>ガイドを 紹介する</p> <p>不動産を 売却しそうな人が いたら共有する</p> <p>不動産に関する 知識を身に着ける</p>

【第4回WG】「推進組織が担うべき機能を考えよう」

B班のグループ名は「十和田湖学び舎」

金村さん発案

機能・取り組み内容に関すること

不足するリソースは？

私たちが頑張れること

ヒメマスに関する担い手

なんでも相談できる入口

交通手段の確保

観光コンテンツの開発(長期滞在・冬季のコンテンツ)

移住者への案内・支援家(不動産)何が十和田湖に必要なか？

人員

お金

発信力

内部をとりまとめてくれるリーダー

外へセールスする人・外で動き回る人・そのリーダー

住居

ヒメマス漁師をはじめとした人員を育てる

決まったリーダーを支える

今あるもので何を利用できるか考える！

候補となる場所を見つける、確保しておく

小学校などの現存する建物の利用、ありものを使う知恵

くつろげる場所(自由に過ごせる場所)

交流できる場所(☕とか?)

小学校利用の話から「学び舎」

金村さんのアイデアが光る！

ヒメマス販売・加工する担い手も必要

小学校は耐震された貴重な建物！

マンパワーが足りていない

相談できるにはリーダーが必要！

坂本さんがそれぞれの繋がりを伝えてくれました！

十和田湖小学校の旧校舎

拠点になる可能性もある！PFI制度の活用も



【第4回WG】「推進組織が担うべき機能を考えよう」

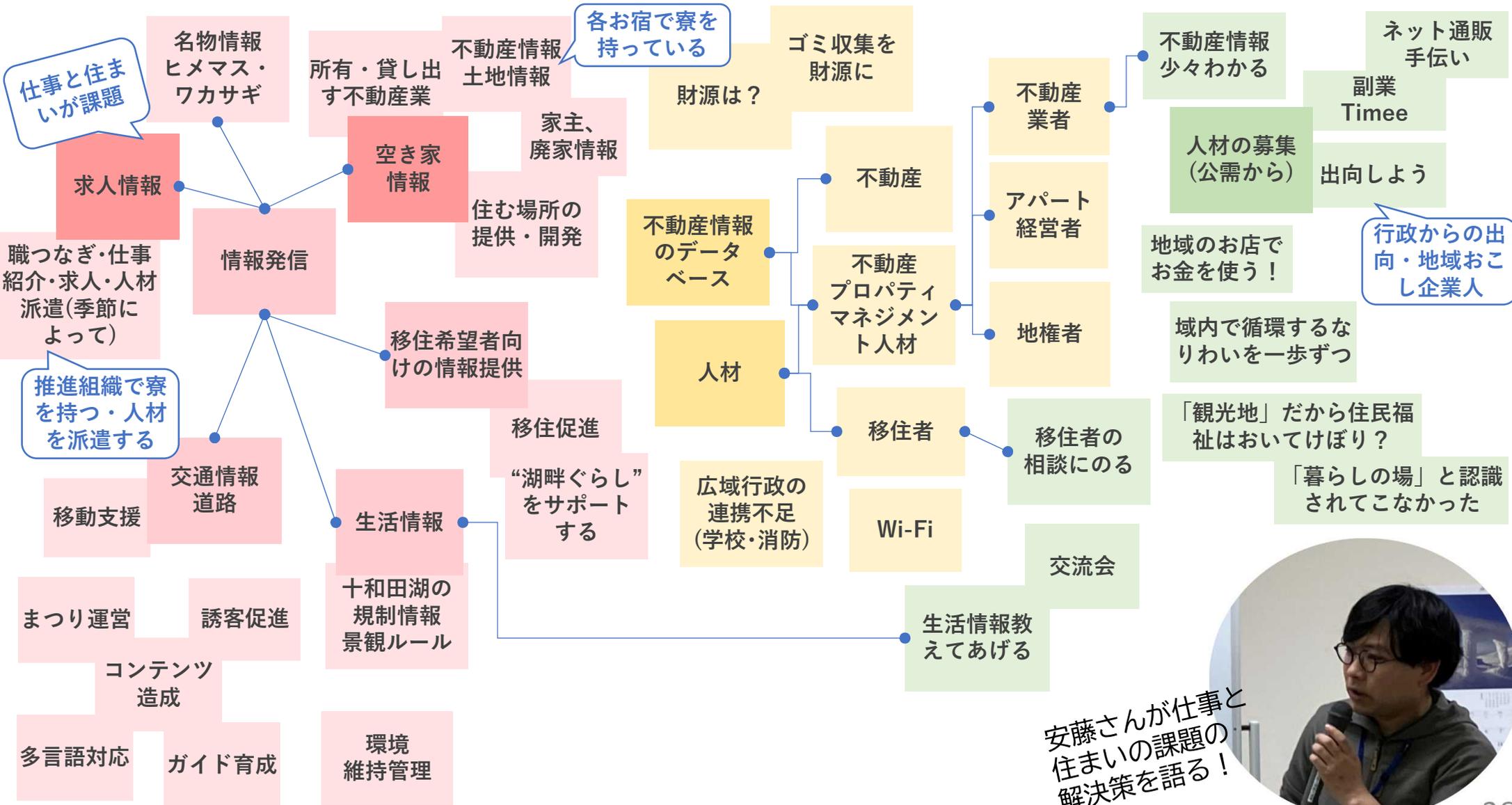
C班のグループ名は「1000年不動産サービス」

人材派遣もイメージしてサービスという名前も！

機能・取り組み内容に関すること

不足するリソースは？

私たちが頑張れること



安藤さんが仕事と住まいの課題の解決策を語る!



地域WGの参加状況

地域WGの構成メンバー

行政

青森県上北地域県民局地域連携部、秋田県鹿角地域振興局総務企画部、十和田市商工観光課、十和田市教育委員会、十和田市まちづくり支援課、鹿角市産業活力課、小坂町観光産業課、小坂町総務課

地域関係団体

(一財)自然公園財団、(一社)十和田湖国立公園協会(宿泊部会・商店部会・交通部会)、(一社)十和田奥入瀬観光機構、(一社)秋田犬ツーリズム、(株)かづの観光物産公社、十和田商工会議所青年部

地域事業者

(同)ガイドハウス権、(同)ネイチャーセンス研究所、遊部屋十和田、(株)soobox、十和田湖伝説の伝え方を考える会

地域住民

宇樽部町内会長、休屋町内会長、休平自治会長、大川岱自治会長
宇樽部地区住民、休屋地区住民、大川岱地区住民

有識者等

青森銀行ビジネスパートナー部、(株)風景屋

各回の参加人数

第1回：30人 第2回：24人
第3回：23人 第4回：20人



地域WGの参加者の反応

第3回加藤さんのインタープリテーション計画の中の「見えるものから見えないものを伝える」「個の総力戦」という言葉がとても印象に残りました。
このようなワーキングを引き続きお願いします！

何かをやろうとするときには、やはり強力なリーダーシップもしくは、引っ張っていく人が必要。その人は外部の人でも良いが、外部の人だけではいけないこと。外部と内部をバランス良く。また、新しいことをやろうとする気持ち、取り組みを見守る体制。

ワークショップは何度もやってきていますが、今回初めて、秋田県側（西湖畔）の意見を聞くことができて良かったです。

今回の会議がかじ取りになって様々な方向が決まれば良いなと思います。

いろいろな立場の方がいるが、考えているのは同じ事が多く方向性は見えていると思う。
地域に根ざした方が多く参加していて良かったと思います。
みんなで野球もいいかも

民間事業者サウンディングの 実施結果報告

民間事業者サウンディングの結果報告

サウンディング実施概要

実施の目的

基本構想案に基づく取組について、民間資金等を活用した官民連携のもとに実施するため、民間事業者から広く意見・提案を求め、対話を通じて実効性・実現性のある取組スキーム等を構築することを目的として実施

実施スケジュール

公示	: 令和5年12月25日 (月)
参加申込〆切	: 令和6年 1月12日 (金) 17時〆切
事前説明会・サウンディングシート配布	: 令和6年 1月17日 (水)
個別サウンディング日程連絡	: 令和6年 1月19日 (金)
サウンディングシート提出〆切	: 令和6年 1月26日 (金) 17時〆切
個別サウンディング期間	: 令和6年 2月 1日 (木) ~2月16日 (金)

サウンディング事項

1. 基本構想案について
 - (1) 基本構想案における現状整理についてご意見・感想をお聞かせください
 - (2) 基本構想案における目指す姿・基本理念についてご意見・感想をお聞かせください
 - (3) 取組方針・施策の方向性についてご意見・感想をお聞かせください
 - ①自然・景観・文化の持続性の取組方針・施策の方向性について
 - ②くらしの持続性の取組方針・施策の方向性について
 - ③観光の持続性の取組方針・施策の方向性について
 - ④取り組みの持続性の取組方針・施策の方向性について
2. 貴社の事業参画の可能性について
 - (1) 想定する事業内容・活用できそうなソリューションについてお聞かせください
 - (2) 参画のメリット・ベネフィット、地域にもたらす効果についてお聞かせください
 - (3) 参画の課題・条件についてお聞かせください
 - (4) 地域との連携・巻き込みに関する可能性や手法についてお聞かせください
3. その他（現時点でのご意見・アイデア・ご要望等の内容についてお聞かせください）

民間事業者サウンディングの結果報告

基本構想に対する主な意見

業種 (主要事業)	参加 企業数	(1)現状整理に ついて	(2)目指す姿・ 基本理念に ついて	(3)取り組み方針・施策の方向性について			
				自然・景観・文化 の持続性	くらしの持続性	観光の持続性	取組の持続性 (推進体制について)
宿泊事業	大手 1社 地元 2社	<ul style="list-style-type: none"> 冬季の公共交通休業、季節による需要の変動、人材不足が課題 	<ul style="list-style-type: none"> 高付加価値体験を、エリア全体で享受できる仕組み構築が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 廃屋撤去後の有効利用は要検討 一時的な規制緩和の検討も必要 	<ul style="list-style-type: none"> 交通インフラや道路改善、地域医療・防災サービス向上は急務 	<ul style="list-style-type: none"> 年間通して観光に訪れてもらえる仕組みの構築が重要 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の主体的な参画、外部組織との連携等が必要
交通事業	大手 2社 地元 1社	<ul style="list-style-type: none"> くらし・観光の交通課題を認識 環境配慮の姿勢の表明が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 移動手段の最適化は重要テーマ（地域課題・費用対効果を踏まえ要検討） 	<ul style="list-style-type: none"> 森林クレジット・基金等を観光事業者が来訪者に提案することも有効 	<ul style="list-style-type: none"> 地域共助型の移動手段構築が有効 サービス認知には長期的な視野が必要 	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツ充実だけでなく、移動の利便性向上やインバウンド対応の充実が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民・関係主体の協力体制を早期に構築することが重要
エネルギー供給事業	地元 1社	(記載内容に同意)	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通・日常生活における不便さは、観光面でも負の影響があり、早急に対策が必要 	(記載内容に同意)	(記載内容に同意)	(記載内容に同意)	(記載内容に同意)
アウトドア事業	大手 2社	<ul style="list-style-type: none"> 団体客集客だけにとどまらない取組み検討は有効 利用動態のデータ把握が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 地域意向を尊重する形での取組み参画をしたい 自然を求める以外の来訪動機も必要 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の満喫だけでなく、<u>保全に向けた意識醸成</u>を図ることが有効 実施主体を要明記 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力表出には、地域の方が堪能し伝えることが重要 規制緩和による交通課題解決が有効 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模集客を積み上げる方が、環境負荷低減・人員不足への対応において有効 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方にも実感いただき、人材育成を行うのが有効 地域のキーマン参画が重要
不動産事業	大手 2社	<ul style="list-style-type: none"> 交通に関する情報の一元化が必要 くらしと観光を両立させる必要性の明確化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 第一に休屋地区で拠点確立し、相互利用の展開が良い くらしの体験方法の差別化が重要 	<ul style="list-style-type: none"> 量よりも質の充実を目指すべき 廃屋撤去だけでは、<u>周辺環境のポテンシャルを損なう</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 地域でのくらしが、ツーリズムの目的になる可能性あり 従業員の雇用確保の観点でも要検討 	<ul style="list-style-type: none"> 対策の濃淡を明確にする方がよい 閑散期のインバウンド取込み等、<u>繁閑の平準化</u>が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 地域でリーダーシップを取れる人材の参画が有効 持続的運用ができる組織組成が必要
トータルソリューション事業	大手 3社	<ul style="list-style-type: none"> 国立公園と「くらし」の繋がり<u>の明確化</u>が重要 流入人口・関係人口の言及が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 行政支援（インフラ整備、補助、データ提供）が必要 「<u>圧倒的な差別化</u>」に留意が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 保護と利活用のバランス、価値の磨き上げが重要 環境政策の取組みを端的に示すべき 	<ul style="list-style-type: none"> 移動手段整備による地域人口維持は不可欠 事業継承に関する取組みも必要 	<ul style="list-style-type: none"> 長時間滞在に繋がる要素充実が必要 ヒトの琴線に触れられる<u>圧倒的な差別化</u>が重要 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に根付いている方の参画が必須 多くの企業・機関との協定、関係構築が有効

民間事業者サウンディングの結果報告

事業参画の可能性に対する主な意見

業種 (主要事業)	参加 企業数	(1)想定事業内容 活用できそうな ソリューション	(2)参画のメリット・ベネフィット、 地域にもたらす効果		(3)参画における課題・条件		(4)地域との連携 巻き込みに関する 可能性や手法
			メリット・ ベネフィット	地域にもたらす 効果	参画の課題	参画のための条件	
宿泊事業	大手 1社 地元 2社	<ul style="list-style-type: none"> グランピング施設等の導入 インバウンドの積極的な受け入れ レストラン×宿泊 	<ul style="list-style-type: none"> 他施設との差別化を図ったサービス提供による呼び込み 農育・美食・観光による集客 	<ul style="list-style-type: none"> 一般客への開放による地域の遊び場の提供が可能 地元生産者との共創による美食伝達 	<ul style="list-style-type: none"> 土地利用規制、補助メニューの有無 働き手確保が困難 従業員の居住環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の通年営業の実現 施設整備に必要な土地面積の確保 	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティ事業者との連携によるプラン開発
交通事業	大手 2社 地元 1社	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転の取組み MaaSサービスの構築 オンデマンド交通のサービス提供 	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転実績構築 事業展開するエリアの活性化 くらしや観光の持続性に直接寄与 	<ul style="list-style-type: none"> 交通バリアの改善 観光客流入や地域住民の交流促進 CO2排出量低減 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験費用確保 交通事業者間の調整の場の構築 電波が弱いエリアでの対応方法 	<ul style="list-style-type: none"> 人手確保に向けた居住環境・通勤手段整備が必要 車両運行を行う事業者・住民が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 各種会議体への参画による関係構築の推進 住民との協働によるサービス構築
エネルギー供給事業	地元 1社	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー供給 電動モビリティレンタル レンタカー・カーシェアサービス 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客等が安心して来訪可能 ニーズに応じた移動支援が可能 ホテル等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 生活インフラの不安解消に寄与 観光の自由度向上、環境にやさしい移動手段の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 働き手の確保 ニーズ調査・PR（情報共有や話し合いができる場の組成が理想） 	<ul style="list-style-type: none"> 事業に適した土地（店舗）の確保 環境整備に対する支援が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 地元の方を主体とし、地域を巻き込んだ連携が必要
アウトドア事業	大手 2社	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査・分析結果を踏まえたプログラムの企画提案 店舗出店（製品製作のタイアップ） 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のガイドとの連携を重視（＝地域雇用創出） 新しい魅力の訴求や体験機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 店舗整備による雇用創出 隣接店舗の集客増加、別事業の進出等の波及効果 	<ul style="list-style-type: none"> 地域意向の確認が第一に必要 地域でハブとなる人材や団体の有無 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域意向を踏まえた提案」の姿勢は必須 一定のトラフィックが見込まれるか 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のガイド組織との連携 地域の歴史・文化にも触れられる工夫が有効
不動産事業	大手 2社	<ul style="list-style-type: none"> ホテル開発・運営 季節限定の宿泊施設の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 国立公園のブランドを活かしたインパクトの提供 地域の自慢（PR要素） 	<ul style="list-style-type: none"> 新規観光客の誘引、滞在期間の長期化、消費活動促進 雇用の創出 	<ul style="list-style-type: none"> インフラ整備、交通整備、災害対策 事業性検証のデータの有無 イベント協賛での参画から要開始 	<ul style="list-style-type: none"> インフラ整備、交通整備、災害対策 周辺施設の整備方針の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ホテル従業員の雇用、地元企業との連携の可能性 食事やアクティビティは地域施設を活用
トータルソリューション事業	大手 3社	<ul style="list-style-type: none"> パーソナルモビリティ導入 ロボティクスによる省人化 データ可視化 等 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的なサービス・保守の提供 情報のアーカイブによるネタの蓄積 居心地のいい観光体験の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行弱者の支援 人手不足・高齢化への対応 持続的な事業運営 地域コミュニティの活性化に寄与 	<ul style="list-style-type: none"> 主体運営組織との連携・協業が必要 PFI事業参画は現時点では非想定 購買情報・人流はデータを要可視化 	<ul style="list-style-type: none"> 通信環境の整備 モビリティが走行可能な道路の整備 専門家による可視化データの分析を経て提案が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 各種データ収集・解析のためのデータプラットフォームが必要 学習におけるアーカイブの有効活用